

専門学校 沖縄中央学園 医療ビジネス科1年(短大卒併修) 新崎 捺美さん(八重山農林高校出身)

進路を悩んだ時、手に職をつけたい！と 医療事務への道を選びました。

高校の頃はインターンシップでケーキ屋さんに行きました、卒業時持っていた資格もボイラー取扱者だけです。と話すのは現在医療ビジネス科に通う1年生の新崎捺美さん。もともと八重山農林高校の食品製造科で食品を製造する知識と技術を学んでいたという。彼女が何故、医療事務の分野を目指すことになったのだろうか。

「高校3年生の時、周りの友人たちがどんどん進路を決めていく姿を見て、正直焦りました、その時思ったのは手に職を付けることが必要だ、と思ったんです。」

といっても元々学んでいた分野とは大きく違う事や、離島からの一人暮らしも課題としてあ

るはず。本人も保護者も不安などはなかったのだろうか？

きっかけは進路室にあった学園案内を見て「ここに行きたい！」と思いましたが、秋に母とオープンキャンパスに参加しました、「女子寮から通えるのであれば大丈夫でしょ」と母が背中を押してくれました。

入学して3カ月が経過し、夏休みも目の前…クラスでも大人しい彼女だが、夏にしたい事を聞いてみると「海に行きたい！どこかに出かけたい！」という返事にやっぱり学生らしさを垣間見せる。

夏休みは島に戻り親戚や友人たちと過ごす予定と嬉しそう。しかしながら夏休みが明けた9月には検定が待っている。

「医療事務検定は聞ききれない用語や、計算がごちゃごちゃして、難しいです。」その通り、医療・ビジネス科では医療事務(医科・歯科)だけでなく、調剤事務や介護事務の資格を取得することが目標となっている。

「恥ずかしながら勉強はあまり得意な方ではなかったけれど、体が丈夫で、遅刻もほとんどなかった事から、担任の先生から推薦してもらいました。」保護者からの仕送りと、国の奨学金制度(日本学生支援機構)、そして学校独自の学費免除を利用している。

去年の今頃三者面談で「迷い中」と言っていた私ですが、今思っているのは高校の頃にもっと資格を取っておくべきだったかな、と思います。パソコンの検定とか、運転免許とか学校強制じゃないものは特に。

進路を決めるタイミングは人それぞれ。しかし定員締め切りまでに滑り込んだ彼女は、一歩ずつ歩みを始めています。焦るのも一つの勉強。でも最後は自分次第です。まだ進路に悩む皆さんもよい夏休みをお過ごしください！

(進路アドバイザー 清水)

“医療事務”というお仕事について

医師や看護師と患者さんとのパイプ役となる身近な存在。受付や会計だけでなく患者さんの見えないところで、本日の会計を計算していたり、カルテを運んでいたりと、病院には欠かせない事務のスペシャリストです。OCGではホスピタルコンシェルジュ資格で接遇もバッチリ、簿記検定や調剤事務・介護事務取得で就職先はワイドになっています。学歴も短大卒がゲットできます！

